

記入例

第62回（令和6年度）北海道優良米生産出荷共励会 推薦調書  
「省力化移植栽培部門」・生産グループの部 (案)

推薦者 ○○地区米麦改良協会 会長理事 ○○ ○夫 印  
調書の内容は誤りのないことを確認した  
振興局 農業改良普及センター 所長 ○○ ○平 印  
検査（出荷）実績を証明する  
農産物検査員 北海道農産協会所属  
JA○○農産物検査員 ○○ ○雄 印

1 対象者 (ふりがな) まるまるちょうすいとんしょうりょくかさいばいけんきゅうかい  
生産グループの名称 ○○町水稻省力化栽培研究会  
(ふりがな) まるやままるじ・ほっかいどうまるまるぐんまるまるちょう1ばん23ごう  
代表者氏名・住所 ○山○次・北海道○○郡○○町○○1番23号

2 経営状況 耕地面積 42.6 ha (注) 田・畑などの合計面積

年次 項目	令和4年	令和5年	令和6年	3カ年の平均
水稻作付面積	36.4 ha ( - )	38.4 ha ( - )	34.4 ha ( - )	36.4 ha ( - )

(構成する生産者の合計面積を記入)

注1) 直播栽培を含む、水稻作付全面積。※加工用米等面積も含める。( )は直播栽培面積。

注2) 今年を含む直近3年間。ただしその間、作付不可能の事由がある場合を除く。

3 構成生産者の状況 (戸・人)

	令和4年	令和5年	令和6年
戸数	6	7	7
従事者数	10	11	11

4 耕種概要

(1) 作付品種と栽培法(※省力化移植栽培: 高密短、密播中苗、成苗疎植栽培)

品種名 (用途)		年次			
		令和4年	令和5年	令和6年	
作付面積 (全体)	品種名	ななつぼし	19.4 ha	19.2 ha	13.5 ha
		ゆめぴりか	8.9 ha	8.8 ha	6.7 ha
		えみまる	8.1 ha	10.4 ha	14.2 ha
		その他	ha	ha	
	合計		ha	ha	
※うち省力化移植栽培面積	品種名	えみまる	8.1 ha	10.4 ha	14.2 ha
			ha	ha	
	合計		ha	ha	

注) 同一年において、複数の省力化移植栽培がある場合は、表を追加して、それぞれについて記載する

注1) 加工用米、新規需要米、政府備蓄米を除く作付面積を記入する。ただし、生産出荷管理において、主食用米と同一の管理であれば、対象とできるものとする(飼料用米は不可)。

注2) 品種名の後の用途は、一般または業務とする。

(2) 堆厩肥等の有機物施用と透排水性改善（省力化移植栽培のみ、当該グループの代表事例を記入）

項目		年次			
		令和4年	令和5年	令和6年	
堆厩肥施用量kg/10 a		1,000kg	400kg	kg	
稲わらの処理法	前年産	春鋤込	%	%	10%
	当年産	搬出	20%	20%	%
		秋鋤込	80%	80%	90%
土壌改良材kg/10 a		資材名	ケイカル	ケイカル	ケイカル
		施用量	100kg	120kg	120kg
透排水性改善			心土破碎	心土破碎	
(備考) 心土破碎とあわせて、毎年溝切りも実施					

注) 「稲わらの処理法」の欄の%は、当該栽培法内における割合。

土壌改良材については、具体的製品名を書く。

(3) 播種時期と播種量（省力化移植栽培のみ、当該グループの代表事例を記入）

項目		年次		
		令和4年	令和5年	令和6年
育苗形式名		高密短	高密短	高密短
播種時期		4月28日～4月29日	4月29日～4月30日	5月1日～5月2日
播種量(催芽粉)		580 ml/箱	500 ml/箱	520 ml/箱
(備考)				

注) 同一年において、複数の省力化移植栽培がある場合は、表を追加して、それぞれについて記載する

(4) 移植時期と栽植密度（省力化移植栽培のみ、当該グループの代表事例を記入）

項目		年次		
		令和4年	令和5年	令和6年
育苗形式名		高密短	高密短	高密短
移植時期		5月21日～5月22日	5月19日～5月20日	5月19日～5月20日
栽植密度	畦幅 × 株間	33 cm × 13 cm	33 cm × 13 cm	33 cm × 13 cm
	m <sup>2</sup> 当たり株数	23.3株/m <sup>2</sup>	23.3株/m <sup>2</sup>	23.3株/m <sup>2</sup>
(備考)				

注) 同一年において、複数の省力化移植栽培がある場合は、表を追加して、それぞれについて記載する

(5) 施肥（省力化移植栽培のみ、当該グループの代表事例を記入）

項目		令和4年			令和5年			令和6年		
		N	P	K	N	P	K	N	P	K
施肥 (kg/10 a)	全層	5.6	5.6	5.6	5.6	6.0	6.0	6.0	6.8	6.0
	表層									
	側条	2.4	2.4	2.4	2.5	4.0	3.0	2.3	3.7	3.8
追肥(kg/10 a)										
(備考)										

注) 同一年において、複数の省力化移植栽培がある場合は、表を追加して、それぞれについて記載する

注) 肥料銘柄(肥効調節型等)、倒伏程度を備考欄に記載する。

(6) 収穫乾燥方式 (該当項目の・を○で囲む)

- ・ 連続乾燥 ( 年～ 年)
- 一時乾燥→貯留→仕上げ乾燥 ( 28年～ 令和6年) 【90%】
- 遠赤外線乾燥 ( 28年～ 令和6年) 【10%】
- ・ 除湿乾燥 ( 年～ 年)

5. 産米出荷成績 (省力化移植栽培のみ)

項目		年次	令和4年	令和5年	令和6年	3カ年の合計
総出荷数量	①	注1	648 俵	863 俵	1207 俵	2718 俵
一等米数量	②	注1	648 俵	845 俵	1207 俵	2700 俵
一等米比率	②/①		100 %	98 %	100 %	99 %
内 高 品 質 米	精米タンパク質含有率6.8%以下仕分対象品種出荷数量		俵	俵	俵	俵
	精米タンパク質含有率6.8%以下	注3	俵	俵	俵	俵
	精米タンパク質含有率6.8%以下出荷率		%	%	%	%

- 注) 1 ①・②は省力化移植栽培で栽培されたものとし、加工用米及び規格外米、新規需要米・政府備蓄米を除く出荷数量及び一等米比率(ただし酒造好適米は一等米以上のものも含む)。ただし、生産出荷管理において、主食用米と同一の管理であれば、対象とできるものとする(飼料用米は不可)。  
 2 俵数は60kgに換算のこと。(一般栽培に組み入れた場合は、収穫・調製時の概数値でも可とする)  
 3 高品質米出荷数量は、仕分基準に基づく実績数量とする。ただし、「ゆめぴりか」は精米タンパク質含有率7.4%以下、「おぼろづき」は精米タンパク質含有率7.9%以下を高品質米出荷数量とする。

6. 病虫害防除の実施状況

- (1) 病虫害の発生状況を的確に把握し、発生対応型防除に努めている。
- (2) いもち病に関しては、ブラスタムの活用およびほ場の見回りを実施。
- (3) カメムシに関しては、すくい取りによるモニタリングを利用。

7. 省力化移植栽培に当たっての創意工夫のある取り組み等(生産安定化や高品質化等の取り組みも含む、具体的に記載して下さい。)

- (1) 通常である中苗マット苗の播種作業とは間隔を空けて、それぞれ最適な苗質で移植できるよう心掛けている。
- (2) 苗丈が短めとなるため、秋のうちから十分にほ場の乾燥に努めるとともに、耕起整地作業においては、特に均平化と砕土率向上を重視し実施している。
- (3) 移植後はすぐに入水して、植傷み防止を心掛けるとともに、初期の水管理には天候に応じてきめ細やかに対応している。
- (4) 環境保持の一環から、特に水田からのメタンガス排出抑制を意識し、通常の乾田化対策は元より特に作期中の中干しでは稲の生育を勘案しつつ、できるだけ長めに実施している。

8. 省力化移植栽培に係わる経営的な視点（生産グループとしての特徴的な・先進的なポイントも含む、具体的に記載して下さい。）

- (1) 箱使用枚数や育苗期間の短縮で、コスト低減と労力軽減が図られた。
- (2) 高密度播種分の苗は、7戸をまとめて育苗し、さらに苗管理の効率化を図っている。
- (3) 播種機並びに移植機は共同購入・利用して、導入コストを削減している。
- (4) 春先の労働競合が軽減されるため、一部では野菜等を取り入れた複合経営が確立している。
- (5) 一般移植栽培との比較では、食味は及ばないものの、収量・品質はほぼ変わらず、園芸作物からの収入と併せ所得が向上した。
- (6) グループ内での技術の研鑽や高度化が図られたことで、後継者らによる地域内での高密短移植の受託作業も始まった。

9. 添付書類

- (1) 令和6年産米栽培履歴

以上

---

上記内容について、第62回（令和6年度）北海道優良米生産出荷共励会実施要領に基づき、一般社団法人北海道農産協会へ提出する事を認めます。

入賞発表、優良事例報告書、会報、ホームページ等で優良事例として生産者の氏名他推薦調書の内容を広報することを認めます。

令和6年 月 日

生産者グループ名称

代表者住所

代表者氏名

\_\_\_\_\_ 印